

小林和正教授研究業績一覧

1947. 「産児制限実態調査結果の概要（第一次報告）」（共著）『人口問題研究』5（10・11・12）：6-32.
1953. 「価値態度体系と人口問題」『人口問題研究』9（1・2）：23-34.
1955. 「生活態度調査中間報告」（人口問題研究所研究資料第103号）.
「家族のサイクルより見た伊豆青ヶ島の人口の生態」『人類学雑誌』64（1）：15-26.
1956. 「農村相続世帯における家族サイクルの諸段階」『人口問題研究』64：15-37.
「江戸時代農村住民の寿命」『人類学雑誌』65（1）：32-48.
「青ヶ島調査資料」（共著）（人口問題研究所研究資料第111号）.
「農家世帯員の就職及び結婚の機縁に関する調査資料」（人口問題研究所研究資料第116号）.
1957. 「文明との接触による植民地原住民の人口変化」『人口問題研究所年報』2：50-53.
1959. 「インドの人口に関する主要統計資料」（人口問題研究所研究資料第131号）.
「わが国の国勢調査における世帯統計」（人口問題研究所研究資料第134号）.
「インドにおける出生地別・居住地別人口の分布に関する一考察」『人口問題研究所年報』4：63-69.
1960. 「アジア人口の将来」（共著）『アジアの人口構造』南亮三郎（編），第7章227-259ページ所収．東京：アジア経済研究所.
「Coale および Hoover によるインドの将来人口の推計」『人口問題研究』79：45-62.
「エカフェ地域の人口」『統計』11（8）：60-63.
1961. 「人口からみたヒトの発展」『人の進化』近藤四郎（編），第5章318-415ページ所収．東京：みすず書房.
「戦後におけるわが国国内人口移動に関する研究展望」『日本の人口移動』館稔（編），第7章178-208ページ所収．東京：古今書院.
「子の年齢別にみた父母の生存する割合」『人口問題研究所年報』5：63-66.
「産業別男子就業者の年齢構造——変動傾向の比較：1950～1955年——」『人口問題研究所年報』6：40-44.
1962. 「大都市移住人口の人口学的・社会経済的特徴」『大都市人口の諸問題』館稔（編），第6章171-210ページ所収．東京：古今書院.
「アジア人口の増加予測と構造変化」（共著）『アジアの人口増加と経済発展』南亮三郎（編），第3章77-104ページ所収．東京：アジア経済研究所.
「産業別男子就業者の年齢構造：1955～1960年の変動」『人口問題研究所年報』7：15-19.
「産業別就業人口の年齢構造の変動」（人口問題研究所研究資料第146号）.
「セイロン人口の再生産構造」（共著）『セイロンの人口構造と経済構造』南亮三郎（編），第2章35-82ページ所収．東京：アジア経済研究所.
1963. 『生活する人間』東京：日本評論新社.
「アジア低開発国の人口圧迫」『世界の人口問題』南亮三郎；館稔（編），第

- 8章 241-272 ページ所収. 東京：勁草書房.
- 「マラヤ連邦人口の社会的構成」『マラヤ・シンガポールの人口構造』南亮三郎（編），第5章159-177ページ所収. 東京：アジア経済研究所.
- 「東京への人口集中の推移に関する男女年齢階級別分析：1920～1960年」『人口問題研究所年報』8：52-56.
- 「わが国の年次別標準化人口動態率，大正9～昭和35年」（共著）（人口問題研究所研究資料第155号）.
- 「平均寿命延長の意義」『人類学雑誌』70（3・4）：33-44.
- 「人口統計資料の扱い方」『民族学研究』27（3）：57-60.
- 「わが国の年次別人口再生産率，大正14年～昭和35年」（共著）（人口問題研究所研究資料第157号）.
1964. 「現代人の生存力」『生命とは何か』八杉龍一（編），第7章183-218ページ所収. 東京：河出書房.
- 「人骨の推定死亡年齢に基づく寿命研究の状況」『人口問題研究』90：55-63.
- 「府県別資料による出生時の体重と乳児死亡率との相関関係：1960年」『人口問題研究所年報』9：69-73.
- 「日本人の寿命」『遺伝』19（1）：13-16.
- 「第17回簡速静止人口表（生命表），昭和38年4月1日～39年3月31日」（人口問題研究所研究資料第162号）.
- 「縄文時代人恥骨の形態と死亡年齢の推定」『人類学雑誌』72（2）：1-13.
1965. 「インド人口の社会的構造」『インドの人口増加と経済発展』南亮三郎（編），第7章175-200ページ所収. 東京：アジア経済研究所.
- 「家系図資料による人口再生産構造の研究」『人口問題研究』96：12-25.
- 「1932年10月～33年9月生まれ全国日本人女子コーホートの人口学的分析」『人口問題研究所年報』10：66-69.
- 「第18回簡速静止人口表（生命表），昭和39年4月1日～40年3月31日」（人口問題研究所研究資料第166号）.
1966. 「戦前戦後わが国全国死亡率の推移」（共著）『人口問題研究所年報』11：47-50.
- 「都道府県別標準化出生率〔昭和5年全国人口標準〕昭和5年・25年・30年・35年」（共著）（人口問題研究所研究資料第167号）.
- 「都道府県別標準化死亡率〔昭和5年全国人口標準〕昭和5年・25年・30年・35年」（共著）（人口問題研究所研究資料第169号）.
- 「第19回簡速静止人口表（生命表），昭和40年4月1日～41年3月31日」（人口問題研究所研究資料第171号）.
1967. 「パキスタンの人口構造」『パキスタン人口の経済分析』南亮三郎（編），第3章71-94ページ所収. 東京：アジア経済研究所.
- 「死亡率の推移」『人口問題研究』100：82-91.
- 「生命表からみた死亡」『人口問題研究』100：92-96.
- Trend in the Length of Life Based on Human Skeletons from Prehistoric to Modern Times in Japan. *Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo* Sec. V, Vol. III, Part 2: 107-162.
- 「出土人骨による日本縄文時代人の寿命の推定」『人口問題研究』102：1-10.
- 「夫婦の出生歴データのライフ・サイクル的集計」『人口問題研究』104：39-

48. 「妊娠届出数による出生数の推計」
 (共著)『人口問題研究所年報』12:61-63.
 「わが国の老年人口増加に対する死亡率低下の影響:1950~1965年」『人口問題研究所年報』12:74-78.
 「進化における人の‘むれ’の意味」『科学』37(4):198-203.
 「第20回簡速静止人口表(生命表),昭和41年4月1日~42年3月31日」(人口問題研究所研究資料第179号).
1968. 「わが国出生力の最近の動向」(共著)『人口問題研究』108:1-15.
 「1960年代前半のわが国人口の出生力」(共著)『人口問題研究所年報』13:29-32.
1969. 「人口史研究と人口学の立場」『経済史における人口』社会経済史学会(編),第1部第1編4,50-69ページ所収.東京:慶応通信.
 「第5次出産力調査結果の分析(1)」『人口問題研究』110:1-24.
 「全国世帯規模の時代的推移」『人口問題研究』111:4-20.
 「第5次出産力調査結果の分析(2)」『人口問題研究』112:1-20.
 「出産順位との関連における1950年代以降わが国出生力の動向」『人口問題研究所年報』14:12-15.
 「第21回簡速静止人口表(生命表),昭和42年4月1日~43年3月31日」(人口問題研究所研究資料第191号).
1970. 「中国大陸の人口増加」『中国の人口増加と経済発展』南亮三郎(編),第2章37-54ページ所収.東京:アジア経済研究所.
 「家族規模」『日本の人口革命』(毎日新聞社人口問題調査会(編),第2部53-106ページ所収.東京:毎日新聞社.
 「第5次出産力調査結果の分析(3)」『人口問題研究』113:31-47.
 「第5次出産力調査結果の分析(4)」『人口問題研究』115:1-31.
1971. 『アジア諸国の人口統計評価と人口分析』(編)東京:アジア経済研究所.
 Traditions and Transitions in Family Structure in Japan. In *The Family in Transition*, edited by Arthur A. Campbell, Fogarty International Center Proceedings No. 3, pp. 105-134. Bethesda: Fogarty International Center.
 「第5次出産力調査結果の分析(5)」『人口問題研究』119:26-40.
 「第5次出産力調査結果の分析(6)」『人口問題研究』120:23-44.
 「タイの人口動態」『タイ・ビルマの人口と経済』南亮三郎(編),第4章81-102ページ所収.東京:アジア経済研究所.
1973. 「わが国出生力の最近の動向」(共著)『人口問題研究』128:31-42.
 「わが国有配偶女子出生力の最近の動向」(共著)『人口問題研究所年報』18:14-18.
 「死亡率の地域的差異」『医学のあゆみ』85(13):899-905.
1974. 「人口の生物学的基礎」『人口問題研究』132:1-10.
 「産業別男子就業者の年齢構造の変動:1955~1970年」(共著)『人口問題研究所年報』19:13-16.
1975. Microevolution and Modernization of Japanese. (共著) In *Anthropological and Genetic Studies on the Japanese*, edited by S. Watanabe, S. Kondo, and E. Matsunaga, pp. 5-14. Tokyo: University of Tokyo Press.

- Population Structure of the Ainu. (共著) In *Anthropological and Genetic Studies on the Japanese*, edited by S. Watanabe, S. Kondo, and E. Matsunaga, pp. 213-223. Tokyo: University of Tokyo Press.
1976. 「日本の人口政策」『現代日本の家族政策』福島正夫(編), 章IX, 323-368ページ所収. 東京: 東京大学出版会.
「アジア諸国の家族計画」『社会主義国・新興国』福島正夫(編), 章IX, 337-376ページ所収. 東京: 東京大学出版会.
1977. Differential Fertility by Working Status of Women in Japan. In *The Fertility of Working Women: A Synthesis of International Research*, edited by Stanley Kupinsky, pp. 317-341. New York: Praeger Publishers.
1978. 『アジア人口学入門』(共著) 東京: アジア経済研究所.
「人口学における生物学的側面」『人口学の方法』南亮三郎; 上田正夫(編), 第8章 153-172ページ所収. 東京: 千倉書房.
1979. 『人口』(編著)(人類学講座第11巻) 東京: 雄山閣.
『食糧資源と日本の人口』(共編) 東京: 社会保険新報社.
Fertility Transition of the East Asian Populations. (共編) Honolulu: University Press of Hawaii.
「甲斐国の人口動態率」『厚生の指標』26 (2): 3-8.
「わが国戦後の初婚率と初婚年齢」『人口学研究』2: 11-16.
「人類学における人口研究の意義」『人類学雑誌』87 (1): 1-8.
1981. 『生活』(編著)(人類学講座第13巻) 東京: 雄山閣.
「タイ国人口増加の地域構造: 1960~1970年」『東南アジア研究』19 (1): 19-53.
「死亡・純移動複合表」『人口学研究』4: 17-22.